

派遣者番号	31K17	氏名	天野 大輔
研究主題 —副主題—	都立学校におけるグランドデザインの共有を通じた組織開発 —ミドルリーダー間の対話と協働に着目して—		
派遣先	東京学芸大学 教職大学院	担当教官	伊東 哲
所属	都立立川国際中等教育学校	所属長	幸田 諭昭

キーワード：グランドデザイン 組織開発 ミドルリーダー 対話 協働

1 研究の背景(目的)・主題設定の理由等

東京都教育委員会は「都立高校改革推進計画・新実施計画(第二次)」において、令和元年度末までに全ての都立高校でグランドデザインを策定することとした。各学校においては、自校の特色を発信するとともに、グランドデザインに示される学校のビジョンの実現に向けた取組を通じた各学校の組織マネジメントの強化が期待される。各学校が特色を生かし、自律的な学校経営を推進するためには、校長のリーダーシップのもと、全ての教職員がグランドデザインに示されたビジョンを共有することが重要である。しかし、都立高校においてはビジョン共有が進みにくいという現状もある。組織的な学校経営を行うためには、校長のリーダーシップのもと、主幹教諭等の中堅教諭(以下、ミドルリーダー)が組織貢献意欲を高め、組織横断的に連携・協働してビジョンの浸透と目標達成に向けた取組の推進役を担うことが必要である。

東京都教育委員会は、平成29年度より「カリキュラム・マネジメント推進校」事業を行うなど、グランドデザインに基づく効果的な教育活動の充実を目指した様々な施策を展開しているが、都立学校における組織的な学校経営のさらなる強化のためには、取組の成果を全都に向けて発信することが重要である。そこで、本研究では、都立学校のグランドデザイン策定・共有の過程におけるミドルリーダー間の対話に着目し、その分析の結果から組織的な学校経営を強化するための要因を明らかにし、広く全都に発信することを目的とする。

2 研究の内容・研究の方法

先行研究の整理	組織開発、対話、協働とは
研究方法の整理	質的研究方法の整理
実践研究	校内研修、ミドルリーダー会等の実践
考察・まとめ	実践の成果と課題、成果の活用方法

3 研究の結果

<先行研究の整理>

(1) 組織開発

研究の目的に沿って、組織開発についての先行研究を整理した。C.バーナードは組織の3要素として、「共通目標」、「貢献意欲」、「コミュニケーション」を挙げ、P.センゲは組織が学習しながら成長するためのディシプリンとして、「自己マスタリー」、「メンタルモデル」、「チーム学習」、「共有ビジョン」、「システム思考」を挙げている。

(2) 対話・協働

日本では佐古らが、目標達成のためには教職員の協働性を高める必要性を指摘し、小島、淵上らはミドルリーダー同士が連携・協働して教職員をエンパワーしながら、学校のビジョンを共有することが重要だと述べている。また、中原・中村ら是对話の意義として、「協調的な課題解決が可能になる」、「組織変革につながる」として、組織における対話と協働の重要性を主張している。

<研究方法の整理>

本研究では、ミドルリーダー間の対話を、SCAT(大谷、2008)を用いて質的に分析し、協働性の変容を記述・解釈することとした。また、分散型リーダーシップ実践(スピラーン、2006)の理論を用いて、研修や会議の様態を動的に記述し、ミドルリーダー間の対話と協働が組織全体にどのように影響を与えたかを分析することで、組織的な学校経営を促進する要因を明らかにすることとした。

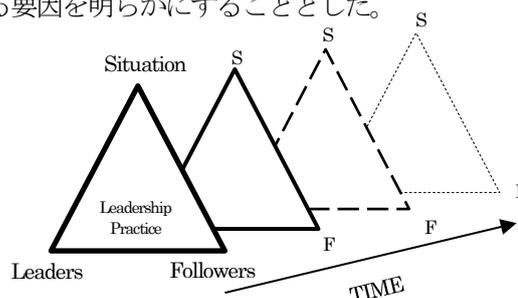


図1 スピラーン(2006)の分散型リーダーシップ実践
※三角形はリーダー、フォロワー、状況の3者が相互に影響を及ぼしていることを表し、その相互作用を実践と捉え、矢印は実践が時間の経過とともに進むことを表す。

